

# 事業報告書

1 支援団体名	NPO九州さがプロジェクト								
2 事業名称	佐賀から自然の再生を世界へ（シンポジウム）・佐賀城お濠めぐり								
4 実施日時	平成22年10月2日13時30分～16時（シンポジウム） 平成22年10月3日11時30分～14時（ジビエ料理を楽しむ） 平成22年11月4日10時30分～11日15時30分（佐賀城お濠めぐり）								
5 実施場所	佐賀市文化会館・佐賀城南濠								
6 事業目的、内容及びその効果	<p>（事業実施状況・内容）</p> <p><b>1. シンポジウム</b> 名古屋市の「生物多様性国際シンポジウム」（COP10）の一週間前に、九州・佐賀から国際シンポジウムのコンセプトの「多様な生き物と人との共生」の行動宣言をしました。</p> <p>・記念講演会 “自然の大切さ”や“生き物と人の共生”について、生き物と科学技術に詳しく、世界中を飛び回っておられる東北大学大学院の石田秀輝教授の「ネイチャー・テクノロジーが創る粋なくらしとものづくり」の講演。そして、鍋島家十五代当主・鍋島直晶氏には「琵琶鱒との出会い」をテーマに“自然の中で生きる人々のコミュニティの智慧”の講演をしていただきました。</p> <p>・パネルディスカッション “人”と“多様な生き物”が共に生きる”をテーマに、佐賀大学名誉教授・荒牧軍治氏をコーディネーターとして、昆虫・魚類の生態に詳しい巖木高校教諭の中原正登氏やビオトープの専門家であり、地域づくりの活動をされているNPO法人唐津環境防災推進機構KNNE理事長の岩本真二氏、記念講演をいただいた石田教授の三人のパネラーが活発な意見交換をしました。</p> <p><b>2. ジビエ料理</b> ウナギ・ナマスの素焼き・エツの干物・地元産の野菜や山野草の料理を楽しみました。</p> <p><b>3. 佐賀城お濠めぐり</b> 10時30分から15時30分まで、2隻の川舟を出して、10人前後の人達や子どもを乗船させました。初日の乗船状況をテレビ・新聞で大きく取り上げられたので多くの人がお濠めぐりに関心を寄せてくれました。乗船希望者の多くに嬉しい悲鳴を上げながら特別に増便をしたところです。 “自然環境の保全・育成の大切さ”と“多様な生き物と人との共生”を船上で話ながら、一時間前後の舟遊びを楽しみました。特に、子どもたちが船べりから「気持ちいい」と声を上げて、水面に手をつけていた光景は忘れられないものです。8日間のイベント中、予想以上の乗船者があり、それと共に、佐賀城南濠を散策する多くの人たちの声援や手を振ってくれた支援を嬉しく思いました。それらの大半が、船に乗った人たちだったようです。</p> <p>（事業実施効果）</p> <p><b>1. シンポジウム</b> 名古屋市の「生物多様性・国際シンポジウム」の一週間前のイベントとして九州・佐賀で「わが国の生物多様性国家戦略のモデル地域を目指す」との宣言をしたことで、多様な生き物と人が共生する新たな社会資本整備の必要性を市民・行政に広くアピールできたと思います。それは、一週間後の名古屋市の国際シンポの報道（COP10）により、私たちのシンポジウムの意図が市民・行政の間に広まったと確信しています。</p> <p><b>2. ジビエ料理</b> 筑後川で採れた天然のウナギ・ナマスや地元産の野菜・山野草の食しながら、自然の恵みを大切にするイベントとしました。</p> <p><b>3. 佐賀城お濠めぐり</b> 佐賀テレビ、NBCラジオ、朝日新聞、西日本新聞、佐賀新聞らの報道機関が広く報道してくれたので数多くの人たち（子どもたちも）が乗船してくれました。お濠に二年ぶりにハスが再生したことも話題となり、ハスを横目にみながらの自然環境の保全・育成の大切さをアピールしました。また、生物多様性のシンポジウムを理解してもらうように話題提供をしたことも今後の私たちの活動に大きく寄与するものと思います。</p>								
7 参加内訳	<table border="1"> <tr> <td>総人数</td> <td>855名</td> </tr> <tr> <td>(1) 主催者参加</td> <td>50名</td> </tr> <tr> <td>(2) 日本人参加（(1)を除く）</td> <td>800名</td> </tr> <tr> <td>(3) 外国人参加（(1)を除く）</td> <td>5名</td> </tr> </table>	総人数	855名	(1) 主催者参加	50名	(2) 日本人参加（(1)を除く）	800名	(3) 外国人参加（(1)を除く）	5名
総人数	855名								
(1) 主催者参加	50名								
(2) 日本人参加（(1)を除く）	800名								
(3) 外国人参加（(1)を除く）	5名								
8 今後の方針	世界の大きな潮流の「生物多様性」の啓発活動をするために、今年の4月から実施している佐賀県全域・筑後川のイベントや関連行事を来年の3月まで、予定どおり活動します。そして「多様な生き物と人が共に生きる地域づくり」の必要性を佐賀県民・行政機関へ広くアピールします。また、来年度には、佐賀県全域を「生物多様性の特区」をめざして「生物多様性マスタープラン」の策定を予定しています。さらに、他県に先駆けて「生きもの科学技術研究所」の構想を立ち上げます。これらを宣言する事で、佐賀を国内外へアピールします。								

佐賀城お濠めぐり

乗船前の説明



第一船に乗船中



出発前



再生したハスの間に



ハスの実を見学



栈橋に到着

